
何度目かのFUCK YOU

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何度目かのFUCK YOU

【Nコード】

N14630

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

お前はウンコだ。ウンコであるお前に「居るべき場所」なんて無い。だってお前はウンコなんだから。お前がもし、この世の全てに拒絶されて、それ故お前がそこに閉じこもる事を選んだんだとしても、だ。お前が今居るそこだって、お前が居る「べき」場所じゃない。どこに居る「べき」でもないお前は、どこに居たつていいんだよ。どこに居たつて、そこがお前の「居るべき場所」なわけじゃないんだから。どこに居たつて一緒。お前は勘違いしてるようだからあえて言うけど、お前には羽根がある。お前の胸に宿って、だけど

報われなくて、燻って、今にも潰えそうなくらい貧相なのに、一向に消え入る気配が無いその漠然とした衝動がすなわち羽根だ。お前の「居るべき場所」など無い。どこへでも行っちまえばいいんだ。その羽根でさ。

守れなかった約束がいくつあるかじゃない。

大事なのは、守り抜けた約束がたった一つあるかどうかなんだ。

どんな立派なヤツでも、守れなかった約束の一つくらいある。

どんな糞なヤツでも、やっぱり守り抜いちゃった約束が一つくらいある。

自分を信じてくれた人たちをことごとく裏切って、家族を裏切って、隣人を裏切って、賭け事に明け暮れて、落ちぶれて、どうしようもなくなくなって、ホームレスになった男がいる。

「この街がこんな風になっちまう前をさあ、おれはよく覚えてる。

おれはなあ、お前ら4人のガキどもと一緒にわいわいやってたあの頃のこの街をほんとに覚えてるんだよ。

駅の下のさあ、マクドナルドとケンタッキーの間にさあ、ちょうどいい具合に無駄なスペースがあつて、そこでお前らいつもギター弾いてて、酔っ払った俺はいつもそこで寝てたよなあ。

俺は覚えてんだよ。

あの頃は良かったよなあ。

変えちゃいけねえものってあるんだよ。

あそこは変えちまうべきじゃなかった。

耐震工事だかなんだか知らねえけどよお、やり方ってもんがあるじゃないかよなあ？

そりゃあおめえよ、俺はパチンコも酒も大好きだよ。

でもなあ、あそこに居酒屋とパチンコ屋はいらねえやなあ。

おめえもそう思うだろ？

俺は覚えてんだよ。

あの頃は楽しかったなあ」

今から7年くらい前。

俺が21歳で、さするとタカと大原くんと4人でいつも多摩センターの駅の下で集まってギター弾いて歌ってた頃の事だ。

あの頃の事をおっちゃんは覚えてると言う。

あの頃の事を語るおっちゃんの目は、嘘偽りない情念を宿してる。

道端で会ったたびに1000円せびってくる。

俺が歌って稼いだ3000円を盗んでった事もある。

タカなんかは「あのおっさんは絶対犯罪者だよ。あの目は犯罪者の目だ」なんていつも言ってた。

実際軽度の犯罪なんて常習的にしてるんだろう。

今まで人生を通して守った約束なんて数えるほどもないような人間だ。

おっちゃん自身がそう言ってるし、実際そいう奴なんだと俺も思う。

それでも、ひとつだけ守ってるんだよ。

「おれはなあ、おめえらの事はなあ、ぜってえ忘れねえからなあ」

本気で言ってるんだよ、おっちゃん。

いいじゃねえか。

ホームレスで、大嘘吐きで、インチキとハッタリばかりで、酔っ払って道行く人に怒鳴り散らす迷惑野郎だけど、そんなのみみっち

い事じゃねえか。

おっちゃんは大事にしてくれてる。

俺達との思い出を、本気で大事にしてくれてる。

分かるんだよ、嘘とか上辺のアレじゃなくて、本気でおっちゃん言ってるって、分かるの。

人間、誰だって死ぬまでに数え切れないくらいの嘘をつくんだ。

大事なのは、何個約束を破ったかじゃない。

一個本気で守り抜いてる約束があるかどうかだろ。

生まれてから今までした全ての約束をお行儀良く守ってる奴だけおっちゃんを馬鹿にしている。

それ以外の奴に、おっちゃんをどうこういう資格は無い。

俺がどんな屑でも絶対見限らない、見限るべきじゃないってイチイチ暑苦しく、手を変え品を変え何度もクドクド語りたがるのは、つまりそう言う事なんだよ。

みんな誰だって一個くらい守り抜いてる約束がある。

そして俺は今まで100万個くらい嘘ついてきた。
あるいはもつとだ。

俺はどんな奴を見下していい次元にもいない。
俺も糞な屑だからだ。

そりゃあ俺にだって守り抜いた事の一つくらいは無論あるよ。
お前にだってあるだろ。

でも守れなかった約束の方が絶対多いはずなんだ。
嘘くらいいついてるはずなんだよ、他人に、自分に、誰だって。
そんな事は無いってお前が言うなら、それがまさに嘘だ。

人を認めてやりたいなら、まず自分が「人を馬鹿に出来る次元に無い、糞だ」って事を認める。

お前だってね、糞なんだよ。

俺より上でもなければ、あいつより上でもない、ただの糞。

それなのに「俺も大概に糞だが、あいつは俺よりもっと糞だ。だって俺はこの点で立派にやってきたけど、あいつはそうじゃない、だからあいつは俺より糞」とか、そんなセコイ事言って人を見下すお前なんて本当にインチキの塊の糞の中の糞だ。

そしてそんな最低最悪に糞なお前でも守りぬけてる事のひとつくらいあるだろ。

あるはずなんだよ。

だって俺知ってるもん。

お前が認めなくなったら、お前が忘れてたって、お前がその人生を通して一つだけ、守り抜いてる事がある事を俺は知ってる。

それが何かなんてイチイチ言う必要はないよな？

お前だって自分で分かるだろ？

お前が今まで、一個だけ守り抜いてきた、自分自身に対してした約束。

お前がそれを未だアホみたいに守り抜いてる、守り抜こうとしてる事くらいはね、偏屈で馬鹿で傲慢でインチキで糞で屑な俺にだってね、分かるんだよ。

お前はどうしようもない救いがたい屑だが、一個ちゃんと守ってたんだよ。

それでいいんだよ。

それを誇れ。

人だけを屑にするな。

自分の糞さ加減も認めろ。

その上でそんな糞なお前の中にほんのちよつとだけあるイカした部分をさ、変に斜に構えないで、もうちよつと真剣に認めてやれよ。俺は知ってるんだよ。

お前はかなりあらゆる意味で最低最悪にダサい癖に人をどっか見下して馬鹿にしてるウスラ寒い雑魚丸出しな屑だけど、そんなお前にもちよつとだけかっこいい部分がある。ぶっちゃけその点は認めざるを得ない。

お前最低最悪だけど、でもまあその点だけはかっこいいよ。

お前も分かっているんだろ？

糞すぎるお前のどこを俺がかっこいいつつっているのか。

お前も含めて、俺も含めて、この世の一切合切、愛するに値する屑なんだって事をさ、いい加減理解しようぜ、な？

手放しに完全に満遍なく愛せつつっているわけじゃねえんだよ。

だって本気糞な屑なんだから。

糞で屑だけどほんのちよーっぴりだけ愛すべき点を有してるんだよ。

ヒトっていう生物はどいつもこいつもさ。

お前がどんな生き方を選ぶのが、どんなキャラ設定でいくつもりだ

ろつがそんなんは知ったこつちやないんだよ。
どうだっていいんだよそんなことは。
俺はお前じゃないし。

ただ認めてやれつつつてるだけ。

お前を含む、俺を含む、あらゆるインチキウンコが内包するイカした部分をさ、ちゃんと認めてやれ。

イチイチ言葉で「すごい！アナタ達みんな立派ですね！」なんていわなくていいんだよ。

心の中で本気で思ってるなら、口では「いや、どいつもこいつも全然糞にしか思えません」ってスカした顔で言っちゃっていいんだよ。

冷めてるけどイカしてる奴ってのは、顔でクール装って、心には情熱と信念を持ってるんだよ。

お前が「冷めてるけどイカしてる奴」じゃなくて、本気で冷めてる奴ってんなら、そもそも俺みたいな暑苦しい馬鹿を相手にしなかったはずだ。

最初から俺は熱気ムンムン中二オーラ出しまくってたじゃねえか。

って事で、前が「本当に心の芯が冷めてる糞つまらない傍観者」いう線は消えるわけだ。

お前はお前が認めたくないくらい、元来的な情熱を心に宿してる。あざといくらいに見せつけて示せっつつてるわけじゃねえんだよ。見せなくたっていいんだよ。語らなくたっていいんだよ。注ぐべきところにちゃんと注げば。

もういい加減分かったはずだ。

俺がなぜ誰も見限りませんよとか軽々しく言っちゃうのか。

別に綺麗事だのかっこつけてるだのじゃなくて、つまり上記の理由ですってことだよ。

どんな糞な人間にだって愛すべき点がある事を俺は知ってるから、どいつを見限ったらいいいのか俺には分からないってだけ。

俺がなんでこうも怠惰で善処しない人間なのかも、いい加減分かるはずだ。

多少のね、善処なんてしようがしまいがね、ハイパーウンコとミラクルウンコくらいの差しかないんだよ。

善処しようがしまいがウンコなの。

それでも善処したい奴はすりゃあいいし、めんどくさいならしなきゃいい。

努力は美しいが、所詮自己満足のオナニーだ。

しなきゃいけない道理は無い。

俺は努力をとことん拒む性根の腐りきった駄目人間だと我ながら本気で思うけど、そんな糞な自分を認める事ができる。

逃げとかいいわけとかじゃなくて、俺だって一個だけ、本気で守り抜いてきたものがあるから。

100万個嘘ついたけど、1個だけ本当があるから。

だから俺はいいの。

お前だっていいんだよ。

そのままでもいいし、頑張りたいや頑張れ。

でもだからって頑張らない奴を馬鹿にしたりするな。

それはまるつきり見当違いだ。

お前にそんな権利は無い。

努力をしない奴がハイパーウンコでも、それを見下すお前だってミラクルウンコなんだから。

分かったら今日も最低最悪にハッピーな感じで過ごしてください。
これを読む君たちに心から愛を込めて。

FUCK

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1463o/>

何度目かのFUCK YOU

2010年10月11日07時46分発行